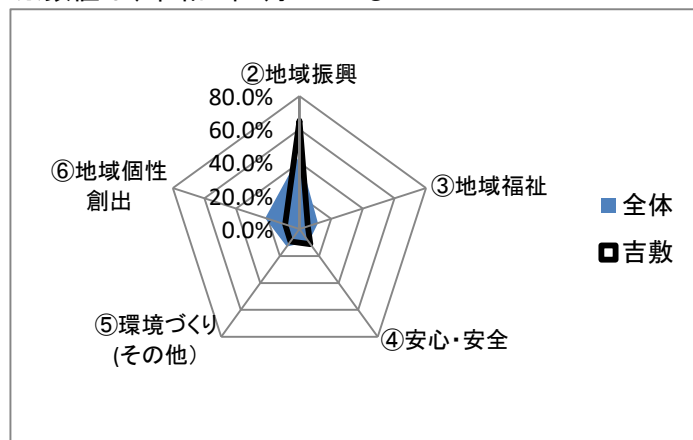


吉敷地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	14,518人	自治会数	16
世帯数	6,453世帯	自治会加入率	77.0%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	9,914,000 円
交付金決算額	8,783,802 円
その他収入	3,655,809 円
交付金決算額／配分額	88.6%

各分野の決算

①協議会運営	8,107,515 円
②地域振興	2,826,257 円
③地域福祉	230,386 円
④安心・安全	484,088 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	399,805 円
⑥地域個性創出	391,560 円
決算総額	12,439,611 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

住民一人ひとりが主体的に地域の中でふれあい、ともに支え合う土壌をつくりあげていくことが重要であり、「若い世代とともに築く 笑顔あふれるふれあいのまち 吉敷」をスローガンに、次の5つの分野に地域課題を整理するとともに、地域としてこれから目指していく将来像を掲げ、課題解決に取り組んでいきます。

活動目標1「地域振興」ふれあいと交流による元気で住みよいまち

活動目標2「地域福祉」ともに支え合い心豊かに暮らせるまち

活動目標3「安心・安全」みんなで協力してつくる安全で安心なまち

活動目標4「環境づくり」美しい自然をみんなで守る快適なまち

活動目標5「地域個性創出」固有の歴史や文化による個性あふれるまち

■総括

「吉敷まちづくり計画」をもとに、課題解決に向け地域で活動している様々な団体や行政と連携しながらまちづくりに取り組みました。今年度は地域住民の協力のもと従前どおりの事業展開ができた年だったと思われます。「自分たちのまちは自分たちでつくる」という精神は、地域住民の皆さんのまちづくりの気持ちの基本となっています。

その中でも、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、「よしきフォトコンテスト」では、年を重ねるごとに応募作品の増加が見られるようになり、事業が定着してきたと感ずることができました。また、様々な交流会はじめスポーツ事業や秋の祭り「吉敷ふるさとまつり」では、実行委員会メンバーにより、開催することができました。しかし事業のあり方や地域住民の関わり方には、新たな課題も見つかりました。課題に向き合い、地域住民の声を聞く機会を作りながらまちづくりに取り組みます。このように、地域住民や地域づくり関係団体の参画による実行委員会は、地域課題の解決に向けての話し合いの場となってきています。同様に、様々なスポーツ交流大会や、講演会なども従前どおり開催することができました。

また、高齢化の進展により免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が地域住民の看過できない課題となっていることから取り組んでいるコミュニティタクシーは、実証運行を終了し、「吉敷地域コミュニティタクシー運行協議会」を設置し、本格運行を開始しました。特に利用促進を検討し取り組んできた成果が、利用者数の増加としてじわじわ現れてきています。また、運行に伴う、地域負担については、この事業が地域全体で取り組むことから、地域の商工会や該当町内会との連携により、協賛金を募ることも協議され、協賛金をいただくこととなりました。

地域情報を広く地域住民に伝えるために、地域住民と地域づくり関係団体等からの参画を得て設立された広報委員会は、地域の情報の収集や発信に努めてきました。この間、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組むとともに、作る側と読む側の双方向で意見交換ができるコーナーを新たに設けるなど、広報紙を手にとっていただけるよう工夫を重ね、取り組みました。その結果全国の公民館報コンクールにおいて当地域の「ふるさとだよりよしき」が金賞を受けることとなりました。

地域の史跡等の取り組みについては、栄華を極めた大内氏にゆかりのある肥中街道沿線の他地域との交流を図るとともに大内氏の歴史を知るバスツアーを計画・実行しました。地域の歴史を知るきっかけづくりにも取り組み、多くの地域住民の評価を得ました。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会運営
② 地域振興	ふれあいネットワーク、コミュニティタクシー運行事業、夏まつり・ふるさとまつり、よしきフォトコンテスト、人材発掘に向けた交流事業、広報活動、人権学習の推進、こどもドリームプロジェクト、ホテル観賞のタベ、動画による活動団体の紹介
③ 地域福祉	大運動会・多世代交流グラウンドゴルフ大会、えがお食堂よしき
④ 安心・安全	地域防災体制の充実、交通安全・防犯対策、反射鏡の充実、青少年の健全育成
⑤ 環境づくり	ホテル増殖・放流事業、環境づくり
⑥ 地域個性創出	文化振興

■重点的に取り組んだ事業

事業名	コミュニティタクシー運行事業	決算額	26,000円
目的	旧出張所・公民館跡地を積極的に活用するために、跡地を拠点としたコミュニティタクシーの運行に引き続き取り組み、高齢化社会に対応するふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。		
実施内容	旧出張所・公民館跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーの運行を実施し、高齢化社会に対応するふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。		
実施時期	通年		
参加人数	乗車人員 3,656人		
① 成果	高齢化の進展により、免許証返納の動きが加速化することから、自家用車に代わる移動手段としてコミュニティタクシー導入のための素地として、吉敷地域の実情に見合ったコミュニティタクシー実証運行協議会を立ち上げ、実証運行に組み込み、実証運行終了後は、本格運行協議会を設置し、本格運行に沿った運営を実施しました。本格運行に移行すると、地域負担が生じるため、関係者がコミタクの必要性について再確認するとともに、運営の継続のために協議を重ね、吉敷地域に沿った形を作りました。乗車率のアップについては、継続して取り組み、テレビ取材などを通して情報を地域に、広く周知する工夫をしながら、利用促進を図ることとしました。		
評価	跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーのルートに該当する町内会・自治会との連携を取りながら、本格運行に組み込みました。思わしくなかった乗車率も工夫を重ねるなど、乗車率のアップに組み込みました。その結果、少しずつ増加傾向がみられるようになりました。		
今後に向けて	運行協議会に、地域の商工会をメンバーに入れるなど、地域で取り組む事業として位置付けています。今後も事業が継続できるように、地域に沿った運営に取り組めます。事業費の3割が地域負担となる本格運行において、少しでも負担軽減になるように、引き続き、乗車率のアップには努めます。		

②	事業名	地域食堂「えがお食堂よしき」	決算額	0円
	目的	地域の子どもや保護者、高齢者など誰でも気軽に利用できる「地域食堂」を開設し、近年希薄となっている地域の住民同士の交流やふれあいの場を復活させ、子どもやひとり親世帯の親などが参加することにより地域の人たちと知り合い、ともに支え合い心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。		
	実施内容	近年希薄となっている地域住民どうしの交流やふれあいの場を復活させ、ともに支え合い心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。		
	実施時期	通年		
	参加人数	150人(限定配食) 40人(ボランティアスタッフ)		
	成果	明日花プロジェクトの支援により毎月第3土曜日に開催している。地域住民の好評を受けて、配食数を150食に限定し実施しました。当地域の事業目的が、地域食堂を通じて孤食を防ぎ、人材(ボランティアスタッフ)の発掘や育成、多くの地域住民が食事を通じた交流を楽しむこととしていますが、来場者は食事と交流を楽しむことができました。		
	評価	今年度は、スタッフの協力も得ることができ、えがお食堂よしきが、ほぼ毎月実施する事ができました。実行委員会で検討し、配食数に制限を設け開催しました。スタッフも含め、食事に来られた地域住民の笑顔から交流の場の提供ができていると思われます。		
	今後に向けて	地域の温かい気持ち(募金、寄付など)から成り立つこの事業の意図が、無料の食堂として来場している人が多い中、どれだけ浸透しているか。その無料の食堂開設のために、毎月1ヶ月間ボランティアスタッフが活動する意味が見出せなくなる気持ちが大きくなっていることが課題となっていました。配食数を限定するなど工夫をしながら開催した。えがお食堂よしきの役員やボランティア関係者がこの事業の推進をすべきかどうか等も含め、協議・検討を進めていきます。		

事業名	人材発掘に向けた交流事業	決算額	152,279円
目的	地域づくりを担う新たな人材の発掘と育成を進め、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。		
実施内容	地域の人材発掘のため地域交流センターと共催で実施する交流事業について、地域づくり協議会はアクティブエイジを対象に、地域交流センターは若者を対象にした事業をそれぞれ担当し、実施に向けて協議しました。若者対象の事業については、地域内の田んぼで古代米を育てようという計画が実施されました。子どもたちが稲かりをした古代米は地域のボランティアの方によっておにぎりになり皆で美味しく頂きました。アクティブエイジの交流会は、継続し開催することができました。計画策定時に「若者とともに築くまちづくり」を取り上げたことから、地域内の若者を発掘することを大きい目的としましたが、今年度も同様に、「近未来を語る」と題し、まちづくりと一緒に進めてい人材発掘の場としました。若い人たちの活動のきっかけや考え、地域に対する気持ちなどを、聞き、それを基に会場の参加者と意見交換をしながら進めました。まちづくりを進めていく人の年代が高くなる傾向にある現状ですが、交流会には、若い人も多く集まり、賑やかで和やかな交流会となりました。		
実施時期	通年		
参加人数	50人		
成果	交流事業は、地域づくり協議会と地域交流センターがそれぞれ「アクティブエイジ」「若者」と担当を持つこととし、それぞれが交流事業を開催することにしています。日々とどまることができない「地域づくり」には、常に地域内の人材発掘が重要なため、この事業は大きい役目を持っていますが、「アクティブエイジの交流会」では、多くの若い人が集まり、賑やかに交流を楽しむことができました。また、その交流会では、現在地域づくりに関わっておられる若い人たちのセッション形式での意見交換を参加者が聞き、この事業をきっかけにして、一緒にまちづくりへの参画を考える人が増えることを期待しています。		
評価	地域づくりを進めていくには、新たな人材を知ることが重要であり、そのきっかけとなる交流事業は地域づくりの中心的事業の一つです。農業を体験しながら住民どうしの交流を促進する場を創出する企画については、運営スタッフにより協議しました。次年度も実施に向けた準備を進めるなど、一定の進捗がみられます。 一方、アクティブエイジの交流会では、多世代の人が集まり、新しい交流会の形で進めることができ、和やかな雰囲気作りもでき、和やかに交流会をすることができました。新たな若い人の発掘は、各々が心に秘めたものがあつたと感じられました。今後も継続し、楽しい交流会を工夫しながら開催し、若い人の発掘を試みたいと思います。		
今後に向けて	引き続き地域交流センターと連携しながら、地域づくり協議会との事業整理、事業担当等を協議しながら、人材発掘と育成のための事業を進めていきます。		